



# Qちゃんの、つぼくら先生！ 放射線のこと教えてコーナー



## 相馬市の空間放射線量とは・・・

**Qちゃん** 先生、僕とても困っているんだ。

**つぼくら先生** Qちゃん、どうしたんだい。

**Qちゃん** 原発事故で県外に避難していた、とても仲のよい友達が帰ってくるようになったんだ。でもその友達が「相馬市の空間放射線量って大丈夫なの？」って僕に聞くんだ。

**つぼくら先生** それじゃその友達に正しい情報を伝えてあげなければいけないね。私たちは原発事故が起こる以前から、日常生活を送る中で知らず知らずのうちに放射線を浴びていたんだよ。宇宙や大地から出てくる自然の放射線によって外部被ばくし、食べ物中のカリウムや空気中のラドンなど自然の放射性物質を摂取することで内部被ばくしているんだ。

**Qちゃん** へえ、知らなかった。原発事故で初めて放射線を受けたんじゃないんだね。

**つぼくら先生** Qちゃんの言うとおりのんだ。その日常生活で浴びる放射線より増えてしまった分を、追加被ばくって言うんだ。ちなみに国が目標としている追加被ばく線量は年間で1ミリシーベルト以下。この追加被ばく線量が1ミリシーベルトという量は、今後目指す値（目標値）ではあるけれど、安全性は十分に確保された値。安全と危険の境の値じゃ無いんだ。もともと私たちは毎年数ミリシーベルトの被ばくをしているし、場所によっては年間の被ばく量に1ミリシーベルトぐらいの差があるからね。加えて、これを達成するために計算された毎時0.23マイクロシーベルトという値は、かなり厳しい仮定の下で計算されているんだ。一日のうち16時間は遮へいの強い家の中で生活する一方で、8時間は家の外にいると

仮定して計算されたものだからね。特に子どもたちにとってはこの過程は極端で、調査の結果から、空間線量が毎時0.6～0.7マイクロシーベルトぐらいを超えるところに住まないと、年間の追加被ばく線量が1ミリシーベルトを超えないことも分かっているんだ。大事なことは自分が実際の生活でどのくらい被ばくしているかを確認することなんだよ。

**Qちゃん** 先生に教えてもらったことをすぐに友達に伝えなきゃね。でも、彼は心配性だから、自分の目で確かめないと気になっちゃうんじゃないかな。

**つぼくら先生** そんな友達には、D-シャトルを勧めて欲しい。

**Qちゃん** D-シャトルって、僕が去年、2週間首にぶら下げていた機器のことでしょ？

**つぼくら先生** そうだよ。D-シャトルは、外部被ばくを測る機器の一つで、測定期間が短く、1時間毎の被ばく量を確認できるから日常生活で受ける線量の違いを知ることができるんだ。相馬市では、市民の皆さんの健康管理にD-シャトルを活用していて、今年度もD-シャトル測定の申し込み受け付けをするから、Qちゃんも友達を誘って測定してね。

**Qちゃん** つぼくら先生、ありがとう。

### 今回Qちゃんが分かったこと

- ①日常生活にも放射線は存在していたこと。
- ②不安解消のためD-シャトルを活用し自分の被ばく線量を確認した方がいいということ。

●問い合わせ先 放射能対策室 ☎ 37-2270

### 自家消費野菜などの 放射性物質測定結果

●4月分 ▼測定件数 29件

(内訳…野菜 9件、果実

1件、魚 4件、山菜・キノ

コ類 13件、その他 2件)

▼基準値を超えた食品 0件

●相馬市で出荷制限などを受けている食品(5月2日現在)

▽たくのこ▽ふきのとう(野生)

▽ぜんまい▽たらの芽(野生)

▽原木しいたけ(露地)

▽原木なめこ(露地)

▽野生きのこ▽こしあぶら▽う

ど(野生)▽牛(県の定める

出荷・検査方針に基づくものを除く)

※最新の情報は、福島復興ス

テーションホームページ内

の「農林水産物の緊急時環

境放射線モニタリング結果

【詳細】でご確認ください。

https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/portal/non-kekak.html

http://www.city.soma.fukushima.jp/housyasen/index.html

◎これまでの食品の検査結果

(相馬市ホームページ)

●問い合わせ先 放射能対策

室 (☎ 37 2270)